2018.12月　冬の診察法と治療法

学術部

中本：実技ディスカッションを始めていきたいと思います。まず、説明の方を竹下先生にお願いたします。

竹下：実技ディスカッション、今日は冬の診察法、治療法と言う事なのですが、今、大阪漢方は大阪漢方の方では季節の影響と言うのは必ずあると言う事で診ていっておりますけれども、今の季節、滑脈とか沈脈とか濡脈っていうような事が診られるんですけども、その季節の脈の程度を今だったら冬の脈の程度とその他の病脈の位置関係と言うのを診る事が、季節の影響を捉える事が出来ると共に、脈診力の向上と言うのが図れるであろうと言う事を考えていますので、今月も実技を交えてお互いに検討しあって季節の脈っていうのを触れるようになっていきましょうと言う事が今日のテーマです。1つ目は脈の冬の程度を調べる、比べると言う事で、まず冬の脈って言うのを探すことから始めていただきます。実技の際にはツボと言うのを決めていただいて、今日触りました冬の代表の今触っている所ですね。陰谷穴であったり、足通谷、あとは委中などそいう言う形でツボを決めてもらって、そのツボの反応と言うものも一緒に診ていきます。基本的にはツボって言うのは外虚内実になっていますので、その反応って言うのも捉えていきます。冬の脈って言うものが程度が強ければ目立っていますし、弱ければ目立たないと。各班でどうやって冬の脈が取れたかとか、取れなかった場合はどう言う理由で取れなかったのかって言うのを各班で議論していただきます。ツボの反応に関しても同じで、外虚内実と言うものを探してもらって、その外虚内実を最終的には瀉法とかを行って病脉と外虚内実の改善と言うのを確認して行くと言うことですね。胃の気なんかも出てこない場合って言うのは、そのツボの外虚内実と言うものがどう言う風に改善されている又は改善されていないって言うのを確認していただいて、ツボの外虚内実や脈が変化しないと言う場合、どうやったら改善するのか何でダメだったのか、これが良かったら良かった理由が何だったのかと言うのを各班議論していただければと思います。

中本：はい。この時間は季節のツボを取ってやっていただきます。一番目立つものを取りたいという方もおられるとは思うのですが、この時間はですね季節のツボだけをお使いください。決められたツボで効果を出す意味があるのかと思われる方もおられると思いますが、技術を磨くためだと思ってですね同じ条件でそのツボで効果を出していただくようにしていただけたらと思います。外虚内実を見付けるのもそうです。ちゃんと外虚内実を見付けて、折角、選経選穴が合っていてもそこで効果が出なければやっぱり意味がないわけで、そういう技術も磨いていただけたらと思いますので宜しくお願いいたします。では始めてください。

（実技ディスカッション）

中本：はい。では各班の意見を聞いて行きたいと思います。まず1班のご意見をお願いします。

竹下：はい、1班です。1班は脈を取ってもらって、冬の脈のどこが目立つかって言う所も取っていったわけですけど、皆それぞれどこを診て良いかって言う所は、全体は診るんですけれどもどこが病邪の　　　と言う所があって、うちは浮沈と言う所で沈脈って言うのが冬の脈として良く出てくる所なのでそこを中心に診て、あと数脉とかがあれば滑なんかも考えましたし、沈脈とか数脉、滑脈なんかが入ってくると濡脈って言うのも診えてくると言う話であったりとか、濡って言うのは単体で考えるとちょっと冬の脈とは違う濡もあるんじゃないかと言う話も出ました。それとツボの外虚内実に関して外虚の内実の、外虚とか内実の程度と言うのが取れてくると経絡の淀みと言うか、が取れてきて、脈の方も改善していくと言うのはそうだろうと言う事は皆で確認できたことです。外実内虚と言うのはじゃあどうなのかと言う話も出ましたけど、リンゴなんかで例えてもらって外の皮って言うのがしっかりしている、と。中身と比べたらその皮はしっかりしているって言う状態って言うのは基本的には正常と考えたり、外の皮が逆にグニャグニャになってっていったら、逆にリンゴとしたら病気なリンゴって言うような意見も出ました。なので外虚内実って言うのが、基本的には人間の身体としては良くない所だろうと言う話ですね。先ほど言いました脈の浮沈に関しては、陽気って言うのが減ってくるので脈は沈んでくると。例えば風船の空気が減ってくるようなモノと言う意見がありました。あとはツボですね。触って最初ちょっと良くなったなあと思って、あとはこれで良いのかなと言うような程度がどれくらい触ったら良いだろう、もっと追っかけた方が良いだろうと言う話もあったんですけれど、皆で話をしてて肩にこれが完ぺきと言うことではなくて追っかけて追っかけてやろうとすると、あとが良くなかったり、上手くいかないんじゃないかと言う話も出て、皆で納得していました。患者って言うものに対してツボを取る時は一所懸命とか、集中し過ぎてって言う風にやってくるときつい気が出てきて患者にとって良くないと言う話があったり、患者って言うのは治らないんじゃないかとか、どうしても治さないといけないって言う風に焦りを持ってやると、上手くいかないと言うことなので、患者って言うのは治るものだと言う風に考えてみる事も一つじゃないかと言う話が出ていました。今出ていた感じでは以上です。

中本：はい、ありがとうございます。さっきの話で止め時みたいな所にも行くのかなと思ったのですが、どの程度鍼をしたら良い、これで止めようと言う話って出ました？

竹下：触ってみて最初にちょっと良くなったって言う、流れが整ったなって言う程度で、やっぱりみておいて方があとは良いと言うような話は出ました。

中本：それくらいで良いんじゃないかという。

竹下：はい。

中本：完ぺきにやり過ぎ、取り過ぎるとあとが大変と言うこと。

竹下：そうですね。無理に触り過ぎたり、100点取ろうとする訳じゃないですけど、やっぱりそう言う時に触り方なんかも触り過ぎたりと言う事になるんじゃないかと言うのは思います。

中本：一番の止め時って言うのは何がこうあれば良いと言う感じなのでしょうか。

竹下：胃の気が出て、やっぱり脈の充実感と言うのが出たりとか、沈脈と言うのがきついようだったらその目立ったもの、冬の脈で目立って良くないと思った部分が改善されていけば、それ以上は追いかけない方が良いんじゃないかと。

中本：はい。ありがとうございます。それであの、最初の方で出た濡の脈は冬の脈とは違う意味もあるんじゃないかと言う話が出たと思うのですが、あれはどう言うことなんでしょうか。

竹下：森本先生から少し話をお聞きしたので、僕が説明したらちょっと不足になるかと思うので、どうでしょう、森本先生。

森本：はい、話しましょうか。えっとですね、濡だけを目標にするとですね何かいつも濡なんて結構弱っている人に感じの出る脈でもあるんですよね。だからそう言うものよりも、まず冬と言うのであればやはり沈脈と言うもの、それから滑脈と言うもの。それから濡が一番最後に来るかなあと言うような順番で良いんじゃないかなと言う話をしたんですね。濡がダメなんじゃなくて、濡を最初に診付けようとして「これは冬の脈です」って言ってしまうと、じゃあ浮いていても良いのかと言うようなことにもなりますからね。その辺りを注意する意味で言っただけのことです。

中本：はい、ありがとうございました。今の1班のご意見で何か疑問、何かありましたら挙手をお願いします。無いですか？では2班お願いたします。

中村：はい、2班ですけども大きくは2点ありまして、冬の脈が分かりやすいかとか分かりにくいかと言う話は当然出てくるかと思ってますので、今日の1テーマの中で浮いて濇脈で数脉で結構いわゆる堅い脈の状態だったんですけど冬の脈が分かりづらくて、よく診てみると浮脈と沈脈の間の中脉くらいでちょっと滑っぽいのがある感じで、冬の脈が確認できたんですけど、じゃあ普通臨床だと濇に飛びついて濇から行ってしまったりとか、浮脈ですからその浮を改善するみたいな取穴になってくるんだけども、でも練習と言う所で陰谷を取穴してやってみたと。それでじゃあどうなるかと言うと、結果的に良い鍼ができれば濇が改善します、数が改善します、浮いていたのがある程度沈んできますって言う風になって、冬の邪の処理を上手く出来ればその他の滑脉以外の脈状も改善できるのかなと言う所で益々認識できたって言うのがまず1点ありました。2点目なんですけど、じゃあ今度陰谷に鍼をするという時にやはり手技の所が大事だなと。何が大事かって言うと、モデル患者さんに言われたんですけど、一番気になったのが下面ですね。下面が開いている状態になると精気が漏れてしまうので、滑脈は改善するんだけども脈が沈んで元気が無くなっちゃったりとかと言う事があったので、その時に下面を改善すると言う風に意識をすると、所謂左右圧は強過ぎないけれども下の下面をしっかり閉じて精気が漏れないようにして邪の処理をするというのをやってみると比較的良い脈になったと言う事で、下面の下の方ですね。それを閉じると言う、精気を漏らさないと言うことの重要性、漏らさないと言う事が大変大事じゃないのかなと言う風に思いました。以上です。

中本：はい、ありがとうございます。今の2班のご意見に対して何かありましたら、はい森本先生。

森本：非常に良い発表だと私は聞いていて思いました。あの確かにね色々な脈は出ているんですよ。1点目の話をしますよ。色々な脈は出ているんですよ。でも季節に影響されているっていう事を認識できたと言うことに関しましては、非常に良い治験だったと思います。それから2点目ですが、要するに手技ですよね。手技の下面を要するに開かない。これって本当に大事なんですよ。下面がちゃんとできていたら他のことなんてね「まあどうでもええわ」みたいなぐらい上手いこといきます。下面が開いていたら何をしてもダメです。これは皆さん気を付けて臨床されるなり何とかしたら良いと思いますけど、上手い下手がここだけでも決まります。大門未知子になれるかなれないかというのはそこだと思ってください。以上です。

中本：他にはありませんか。じゃあ3班、中村先生何かありますか？

本田：2班の本田です。下面が閉まっている事もすごく大切にしてやっていたんですけど、外虚のツボの反応点っていうのも結構大事に診たんですよね。やっぱり押手でも鍼の外虚の時の改善が無ければですねやっぱり脈状がおかしいって言うのも班員で全員確認しましたし、何でその脈が良くならないのかって言うのも術者の指の下面の問題もあるんだけれどもそれを良くすると言う、外虚を良くすると言う意味でそう言う目標を持ってやっていくと改善って言うのがですね分かりやすく、脈の改善にもつながって分かりやすくなったと言うこともありました。以上です。

中本：はい、森本先生。

森本：どうして外虚内実に拘っているかと言う事が、皆さん分かっておられるのだったら良いですけど、要するにですね経絡がそこで歪んでいると言う事なんですよね。外虚を起していると言う事は内実も奥にはある訳ですからね。そう言うバランスなんですからね。その経絡が上手いこと流れていたら中の内実も要するに流れますし、外側の外虚も取れるわけですよね。そうしたら経絡と言うのはすっと通りが良くなるから当然脈状も、場合によったら病症も良くなっていくのは当たり前の話なんでね。外虚内実という言葉だけに惑わされずに、経絡がそこで歪んでいるんだと言うことを皆さんちゃんと頭に入れておいてもらったら、それを治せば当然経絡は通るようになっているんですよ。生きている人間は皆そう言う風になっているんですからね。そこをしっかり押さえておいて欲しいと思います。以上です。

中本：はい、ありがとうございました。では3班、宜しくお願いいたします。

河村：はい3班です。3班は冬の経を調べる冬の脈は取れるのかと言うことで脈を診ていったんですけど、2例診ていったんですけど、脈はそれぞれ沈濡滑。それぞれ程度は違いますけど診付ける事が出来たと言うことです。ツボの反応ですね、陰谷のツボの反応を診たんですけども、やはりそこに外虚内実というのが診つかってて、そこに置鍼をしていくんですけども浮いていたのが落ち着いたりとか、沈んでいたのが浮いてきたりとか言う事がありまして、もうちょっとだけあともうちょっと硬さが残るなと言う感じがあったんですけども、その時に午前中にスキルアップでやったような浅い鍼をしてたんですよね。それを何としていって段々脈状も上がって良くなっていったんですけども、あと一声みたいな所で一回ちょっと背臥位（伏臥位の間違い）になってもらって委中を診てみましょうということで、水を流せるかどうかって言うことで膀胱経の委中ですね。刺鍼していると後頚部とか臀部の外虚が張りが出てくるような反応になってきたんです。もう一回、仰臥位になってもらって脈診するとさきほどあった堅さが取れたと言う事が確認ができました。陰谷にあるツボ反応は大きい範囲だったんですけど、外虚が変わっていく様子が皆、確認して取れたのが良かったなと思っています。以上です。

中本：はい、ありがとうございました。今の3番の発表に何かご意見がありましたら、質問がありましたら挙手をお願いいたします。はい、森本先生。

森本：あの治療って言うのはね、別に脈を変えるだけとは違うのですよね。だから、全部が変わると思ってください。言うとすれば、そのかわり下手にすると全部が下手に変わるということもあり得る訳ですよね。だから、まずは変える方法を勉強されたら、まぁ、ええ加減なものでも治療になりますよ、はっきり言って。そんな程度のものですから、あの全部変わるんです。ツボも変われば、脈も変わるし腹も変わればね、頸の緊張も取れるし、背中も緩むし、そういうのが治療ですしね。本当言ったら、一番美味いツボを取って一番上手い手法をすれば最小限の事で行けるのもこの世界の旨味と言えば旨味なんですね。だから、なんでもかんでも頭の先から足の先まで鍼を下から「あぁ、良くなった」というような事では、素人でも勉強しなくてもできる。勉強している者は、最小限の事で最大限の効力を出す、という私の持論なのですけど、そういうものがプロの世界のモノであろうと僕は思っています。ですからね、とにかくすべて変わるのですよ。外虚も取れますし、脈の堅いのも沈んでいるものも浮きすぎているものもみんな取れるのが、面白いところですよね。以上です。

中本：はい、ありがとうございます。これで各班の意見を出してもらって、まだ１０分ぐらいあるんです。ここ八か月ぐらい大阪漢方は外邪、季節の治療をやってきました、外虚内実を取ったりだとか、陰陽調和の手法をやったりとか、ここで質問というか、ここはわからない、ということがありましたら、そういうものを年越させないようにしたいと思うのですが、何かありましたら挙手をお願いします。こういうのはどう考えたらよいのか、無いでしょうか。来年、来期からは、皆さん、季節の治療はやってはいくのですが、夏期研もありますしね、こういう事をテーマにしていくのですが、各自の研究テーマなどもちょっとずつ出してもらいたいと思っています。今、できることはちゃんと解決しておきたいと思っているのですが、何か疑問とかありましたらお願いいたします。無いということは、もう皆さんけっこう理解できたということで判断していきますがよろしいでしょうか。まぁ、今から応用実技をやっていくので、その時に、また、わからない、手技が出来ない、ということがありましたら、今日解決して帰って下さいね。明日、良い治療をして、来月は良い気持ちで新年迎えていってもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ないですか？はい、でしたら、ちょっと早めですが、これで実技実カッションを終りたいと思います。